

特集2 有明海・八代海の再生に向けて

かつて有明海・八代海は、「宝の海」といわれていました。しかし、最近では大規模な赤潮の発生によるノリ不作・魚類養殖業の被害など水産資源の減少が見られていて、環境の悪化が心配されています。

有明海・八代海の再生には、海を汚さないようにするのはもちろん、漁場や森林づくりなど、さまざまな分野での取り組みが必要です。

県では、「熊本県有明海・八代海再生に向けた総合計画」をつくり、この計画に沿ってさまざまな取り組みを行っています。

みんなの川と海づくりデー

●きれいな川や海は、県民一人ひとりの行動によって守られます。

このため、毎年8月下旬の日曜日に、川や海の一斉清掃活動など、できるだけ多くの県民の皆さんが参加できる活動を行っています。



平成13年度は、県全体で約6万人が参加

豊かな漁場づくり

●マダイ・ヒラメ・クルマエビなどの稚魚を放流するとともに、小さな魚を再放流するなど、魚がたくさんいる豊かな海となるよう取り組んでいます。



小学生による稚魚の放流

●干潟には海をきれいにする力がありますが、近年、環境の悪化などにより、その力が低下しているといわれています。このため、干潟に砂をまくことにより、干潟の力を回復させ、アサリなどの生物を増やす取り組みを行っています。

水質などの監視

- 国や市町村と協力して、川や海の水質などの監視を行っています。
- 平成14年度からは、調査回数をこれまでの年6回から年12回に増やすなど海域環境の監視を充実します。



サンプルの採取

赤潮の発生原因の解明

- 赤潮の被害を防ぐため調査船による定期調査などを行い、県のホームページなどにより、漁業者の皆さんへすみやかな情報の提供を行っています。
- 赤潮の発生する原因を明らかにするための調査研究にも取り組んでいます。



赤潮プランクトンの分析

森林づくり



山に木を植えるボランティアの皆さん

- 「森は海の恋人」といわれるように、豊かな森林は海に恵みをもたらします。森林に降り注いだ雨は、豊富な養分を含んで川や地下水を通じ海に流れ込み、ノリや魚介類を育む豊かな海をつくれます。
- 豊かな森林づくりのため、ボランティアの人たちや漁業者の皆さんが行っている山に木を植える活動の支援をしています。

生活排水をきれいに

調理くずや食べかすは回収してゴミとして出しましょう。



- 川や海の汚れの約6～7割は家庭からの生活排水によるものと考えられています。このため、下水道や合併処理浄化槽などの整備を進めるとともに、食用油などの処理や洗剤の使用を適正に行うなど、日常の家庭生活から出る汚れを少しでも減らすよう呼びかけています。

有明海・八代海を再生させるには、環境が悪化している海をきれいにするだけでなく、汚さないようにすることが大切です。私たち自身の生活を見直し、時間をかけて取り組んでいかなければなりません。

豊かな海を後世に伝えていくために、ぜひ、皆さんのご協力をお願いします。

■お問い合わせ先／熊本県環境政策課 政策班

☎096-383-1111 (内線7317) FAX096-383-0314

電子メール kankyouseisaku@pref.kumamoto.jp